



10



11



12



13



14

1 プロフィールボード「住民十色」2 ベンチの設置を提案 3 住民十色作成のため住民へ質問 4 あいさつをする山本先生 5 司会を務めた水原和奏さん 6 7 業者から設計意図を説明 8 町公営住宅課も参加 9 当日はあいにくの雨 10 座談会のように 11 12 13 天板目地詰め作業風景 14 天板完成

ここからは二手に分かれ、子どもたちは、団地に設置されている収納棚に付ける天板の目地詰め(タイルの隙間を埋める)を担当。熊本工業高校の生徒に教えてもらいながら、丁寧に作業をしていました。

その他の参加者たちは、住民同士がもっと交流できるよう、2つのアイデアを生徒から提案されました。

1つは、木製ベンチの設置。これは、「住民同士のつながり」をテーマとして、2人1組で座れる「く」の字型の椅子を5組設置するもの。普段は2人掛けの普通のベンチですが、イベントなどの時には、団地の中心にある木を囲んで円形のベンチになるという仕掛けがあります。(写真参照)

2つは、「住民十色」と名付けられたプロフィールボード。生徒が団地の全10世帯の入居者に聞き取った「好きなコート」、「みなさんに一言」などをボードにまとめて、各家庭に配布するというもの。今回の座談会で出た意見などを取り入れて、10月頃には、ベンチの設置およびプロフィールボードの配布を行いたいと考えているとのこと。

今回の実習に参加した生徒のうち、益城町から熊本工業高校に通っている秋月美柚さん(みゆ)は、この実習を含めたSPHの授業で学んだことを生かし、県内で就職したいと話しました。